

アメリカの豚価に影響を与える 3 カ国

ミズーリ大学の経済学者ロン・ブレイン氏が 2009 年のアメリカの養豚業界を振り返っている。2009 年は生産量が減少したものの、平均的なアメリカの生産者は実に 1 頭出荷するごとに 25 ドルもの損失だったという。カナダドルは強いのでカナダの生産者はさらに厳しい現実を送ったと思われる(円高になると輸出が厳しくなると同じ現象)。今後の豚価の動向を見極めるのは非常に難しいが、豚価に最も影響及ぼす要因はなんと言っても輸出だ。国産消費は確かに重要だが豚価の決め手になるのは輸出国の動きだという。もちろん日本は最大のお客さんだか、安定的に購入してくれているのでさしあたり心配はしていない。ところがメキシコ、中国、ロシアはどうも一筋縄ではいかないようだ。

メキシコも元来安定しない国だが、2009 年から 2010 年にかけて消費輸入が拡大しているので、この傾向が続いてくれればかなり豚価の上昇に期待できると見る。一方中国は依然として増えてこない。2008 年は大量に購入していたが、インフルエンザのおかげで政治的に一方的に鎖国をしてしまった。ロシアも再開はしたとはいいがどれほど期待できるのか不安定要素が強く、様々な要因で多種多様に進みそうだ。そんなことからブレイン氏はメキシコ、中国、ロシアの 3 カ国の輸入動向が豚価の決め手、鍵を握ると見ているようだ。

一年前に比べ母豚数もこれに伴う出荷数も減らし努力しているアメリカだが、継続的に生産調整を施さないとより良い 2011 年は訪れないだろうと、まだしばらく厳しい状況が続くことを予測している。

(The Pig Site.2010.1.18 参照)

2010 年 2 月 グローバルピッグファーム(株)